

小葉の基部の縁に  
腺点がある



葉



樹皮

### ニワウルシの特徴

庭木や街路樹として明治時代初期に中国から導入された外来植物です。ウルシに似ていて、庭に植えられることから「ニワウルシ（庭漆）」の名がつけられました。

10対を超えるたくさんの小葉をつけた羽状複葉が特徴で、ほかのウルシ類と区別できます。小葉の基部の縁に腺点があります。



花



実

### 六甲山での分布

表六甲を中心に、広く分布しています。

### 生育環境や植生との関係

表六甲の林縁や伐採跡でよく見られます。



樹皮

### ヌルデの特徴

幹から採れる白い液を器に塗ったことがヌルデの名の由来といわれます。ウルシの仲間なので、肌の弱い人はかぶれることもあります。

ヌルデは五倍子（ごばいし、または附子：ふし）と呼ばれる大きな虫こぶをつくります。これはお歯黒や草木染めなどに利用されてきました。果実には塩分が多く、様々な種類の鳥が好んで食べています。



花



実

### 六甲山での分布

海拔50～700mまでの広い地域で見ることが出来ます。

### 生育環境や植生との関係

アカマツ林やコナラ林の林縁といった明るい場所に生育します。伐採地などに生育する代表的な先駆性植物の一つです。

# ハゼノキ ウルシ科



樹皮

## ハゼの特徴

果実から上質のロウがとれ、和ろうそくの原料になります。別名のロウノキは、そこからついた名です。六甲山系では、緑化樹として明治時代から利用されてきた記録があります。同じ仲間のウルシやヤマハゼも複葉が枝先に束生して似ていますが、毛が葉の両面にあるのがヤマハゼ、脈上のみなのがヤマウルシで、ハゼノキにはほとんど生えていないことで区別できます。



花



実

## 六甲山での分布

表六甲ではあちこちで見かけますが、裏六甲にはほとんど分布していません。

## 生育環境や植生との関係

ハイキング道沿いの林縁や二次林内、伐採跡の藪にもよく見られます。特に、ウバメガシ群落やオオバヤシヤブシ群落で多く見られます。

# ヤマウルシ ウルシ科



成木の葉はほぼ全縁、幼木の葉には大きな鋸歯がある

0 2cm

葉

## ヤマウルシの特徴

名前は山地性のウルシの意味です。ウルシの仲間は樹液でかぶれることがあります。

葉は円く先はとがり、若いときは鋸歯があります。ウルシ類はみな鳥の羽のように葉が枝先に集まってつきます。ウルシ類は葉裏の毛の生え方で区別します。毛が葉の両面にあるのがヤマハゼ、葉脈上のみに見えるのがヤマウルシです。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

明るい場所に多く見られます。特に、アカマツ林などの落葉広葉樹林を中心に分布しています。

Ⅲ

解説

落葉広葉樹



葉

## イロハモミジの特徴

イロハモミジの名前の由来は、子どもたちが切れ込んだ葉の一片一片を「いろはにほへと」と数えたことによります。葉の先は帯状に長く伸び、鋸歯はオオモミジよりも荒く不揃いです。秋にはつばさのついた実が風によって回転しながら飛んでいきます。六甲山系では11月から12月にかけて紅葉を楽しむことができます。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

渓谷や谷筋斜面の、空気中の湿度が高い涼しげな場所を好みます。エノキ林が成立する場所によく見られます。



## コマユミの特徴

「小さいマユミ」が名前の由来です。枝は緑色で、葉柄がほとんどありません。秋には、実や葉があざやかな紅色に色づきます。

庭木で馴染みのある「ニシキギ」の野生種です。よく似たマユミ、ツリバナとは葉柄の長さで区別します。コマユミには葉柄がほとんどないのに対し、マユミ、ツリバナには、はっきりと分かる葉柄があります。



花



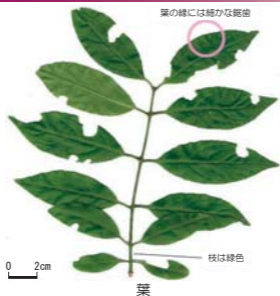
実\*

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

コナラーアベマキ群集、アカマツモチツツジ群集など明るい落葉広葉樹林を中心に分布しています。常緑広葉樹林で見かけることはほとんどありません。



### マユミの特徴

マユミ（真弓）の名前の由来は、この樹木で弓を作ったことによります。枝の先端は緑色です。葉は細長く、先のとがった楕円形で、はっきりと分かる葉柄があります。秋に葉や実が赤く色づいて美しい木です。

よく似たコマユミ、ツリバナとは、葉柄の長さで区別できます。マユミは0.5～2cm、ツリバナは0.3～1cm、コマユミにはほとんどありません。



花



実

### 六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

### 生育環境や植生との関係

エノキやニセアカシアの多い林に見られます。

# ヤマボウシ ミズキ科



葉

## ヤマボウシの特徴

葉の縁と平行に湾曲して伸びる葉脈が特徴です。梅雨時期に白い花が咲き、秋には直径1 cmほどの実が赤く熟します。実は甘くて美味です。

よく似たハナミズキは、アメリカ大陸原産の別種で、葉の縁と平行に湾曲して伸びる葉脈が特徴です。他にもミズキは葉が互生であること、クマノミズキは葉が細長く、葉柄が長いことから区別できます。



花



実\*

## 六甲山での分布

裏六甲や表六甲の海拔300m以上の地域に点在して分布しています。

## 生育環境や植生との関係

落葉広葉樹林で見られます。





葉\*

## ミズキの特徴

5月から6月頃に小さい花を密につけます。実は6月から10月に赤色から黒紫色に熟します。葉は互生で枝先に集中してつき、葉の表面はやや光沢があり、裏面は白緑色です。縁は全縁で大きく波打ちます。

よく似たクマノミズキは葉が対生で、花期が1カ月ほど遅いこと、ヤマボウシは葉が円く、葉柄が短いことから区別できます。



花\*



実

## 六甲山での分布

六甲山系では中腹以上の谷筋に分布しています。

## 生育環境や植生との関係

丘陵帯から山地帯のやや湿った所によく見られます。

# クマノミズキ ミズキ科



## クマノミズキの特徴

名前は三重県熊野地方に生育するミズキという意味からきています。梅雨頃、白く小さな花が集まって咲きます。10月頃、花の軸は実が熟していくとともに赤くなります。葉は対生で、葉先は尾状に伸びます。クマノミズキの葉が対生するのに対し、よく似たミズキの葉は互生します。



花



実

## 六甲山での分布

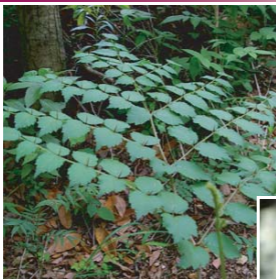
六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

谷沿いの崩れやすいところに生える高木です。エノキ林でよく見られる樹木です。

# タラノキ

ウコギ科



葉



樹皮

## タラノキの特徴

春先に、山菜として新芽を天ぷらにして食べることができます。

幹や枝、そして葉にまで全体的に鋭いトゲの多いことが特徴です。葉は鳥の羽のように広がります。夏には小さな白い花を咲かせ、放射状に開いています。秋には黒い実がなります。



花



実\*

## 六甲山での分布

明るいハイキング道沿いでよく見つけることができます。

## 生育環境や植生との関係

伐採跡の藪や林縁などの明るい場所によく見かけ、タラノキクサイチゴ群集の指標種となります。

# リョウブ

リョウブ科



0 2cm

葉は枝先に集まってつく

葉



樹皮

## リョウブの特徴

夏に小さな花が穂のように多数集まって咲きます。古い樹皮がはがれ落ちてできる、茶褐色と灰褐色のまだら模様の樹皮が特徴です。樹皮はなめらか、葉はザラザラです。



花



実

## 六甲山での分布

明るい林に広く分布しています。谷筋よりは、尾根筋に多い樹木です。

## 生育環境や植生との関係

落葉の自然林（ブナ-シラキ群集）から二次林まで明るい林に広く見られます。

# モチツツジ ツツジ科



## モチツツジの特徴

新芽や花のがくなどが「とりもち」のように粘るため、このような名前で呼ばれます。

5月頃から晩秋にかけて薄紫色の甘い香りの花を咲かせます。枝や葉、がくはそれぞれ3cm程度で、毛がたくさん生えており、触ると粘ります。



花



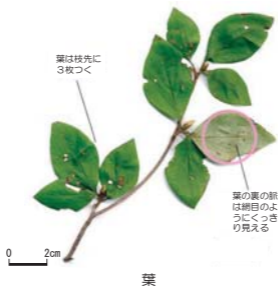
実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

アカマツ林やコナラ林の林内や林縁で多く見られます。



## コバノミツバツツジの特徴

春、木々が芽吹く頃、濃いピンク色の花を咲かせます。春先に真っ先に咲くツツジです。小さな3枚の葉が枝先にまとまってつきます。枝は三つ又に分かれるように、上方に伸びています。葉の裏の葉脈は網目のようによくつきり見えます。葉の形はひし形に近い楕円形です。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。斜面上方の乾燥気味の所で多く見られます。

## 生育環境や植生との関係

ブナ林やアカマツ林、コナラ林など落葉樹が多い明るい林に見られます。



## エゴノキの特徴

名前の由来は、実がえぐいことによります。実の皮にはエゴサポニンという物質が含まれ、石けんの代用としたほか、魚毒としての麻酔効果を利用して魚とりに用いました。

初夏には多数の白い花が枝から吊り下がります。葉のつけ根には小さい綿棒のような冬芽がついていることも特徴の一つです。葉のつけ根で枝がシグザグと折れ曲がります。



花



実\*

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に谷筋によく分布しています。

## 生育環境や植生との関係

自然林、二次林、人工林など広範囲に生育する樹木です。



葉



樹皮

## イボタノキの特徴

林縁の植生を指標する、明るい所に多い植物です。樹皮には、カイガラムシの一種、イボタロウムシがつき、この虫の分泌する蠟（ロウ）が、枝をびっしりと白くおおうことがあります。小さな葉が、枝の両側に向かい合って行儀よく並んでいます。その葉の大きさが、枝先に向かうほど大きくなっていくのが特徴です。



花



実\*

## 六甲山での分布

ハイキング道沿いや、谷筋に近い明るい林内でよく見かけます。

## 生育環境や植生との関係

夏緑樹の優占する明るい樹林に生えています。





## ムラサキシキブの特徴

名前は、美しい紫色の実を平安時代の才女、紫式部にたとえたことに由来すると言われています。

初夏に紫色の花が咲き、秋になると美しい紫色の実をつけます。葉は細長く対生し、細かい鋸歯があります。葉はややザラザラしています。



花



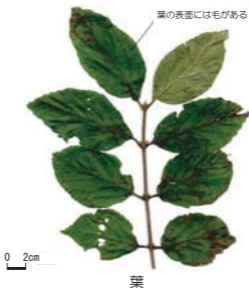
実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

コナラ林、エノキ林を中心に広く見られます。



## ガマズミの特徴

5月から6月に小さな白い花をたくさん咲かせ、10月頃に美しい赤い実をつけます。熟した果実は甘酸っぱく、鳥たちの好物です。葉の大きさや形にはばらつきが多く、円形に近い葉が多く見られます。葉の基部がくさび形のものも多くみられます。鋸歯はとがりがにぶく、あまりはっきりとはしていません。両面ともに荒い毛があり、触ると少しザラザラします。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の二次林を中心に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

落葉二次林のような明るい林でよく見られる樹木です。



葉

## コバノガマズミの特徴

5月頃に白い小さな花をたくさん咲かせます。秋には紅葉し、赤い実をつけます。葉はガマズミの間ではもっとも小さく、葉柄が短いのが特徴です。葉はピロード状のフワフワとした手触りのため、よく似たガマズミ、オトコヨウソメ、ミヤマガマズミと区別がつきます。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

落葉広葉樹林でよく見られます。林内でも林縁でも見られます。



## ミヤマガズミの特徴

ミヤマガズミ（深山（みやま）がますみ）の名前に似合わず、六甲山をはじめ低山の里山でも比較的好く見かける樹木です。

5月頃に小さな白い花を咲かせ、秋には赤く小さな実をたくさんつけます。葉の表面は毛がなく光沢があります。葉の先端は鋭くとがっているものが多く、縁は粗い鋸歯が目立ちます。また、葉柄は赤みを帯び、長毛が目立ちます。



花



実

## 六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

## 生育環境や植生との関係

コナラ林、アカマツ林などの二次林によく見られま  
す。